

2019年3月9日

「神戸発祥の総合商社の源流・鈴木商店を知る」 第4回講演会

鍋島 高明

金子直吉と岩崎弥太郎

— 共通点と相違点

I、金子直吉の生涯

- 慶応2年(1866) 高知県名野川村(仁淀川町)出身。ルーツは金子元宅(長宗我部元親の家臣)
- 明治4年(1871) 高知市へ移住。長尾砂糖店、野中乾物店に小僧として住み込む
- 同13年(1880) 農人町の傍士質店に奉公、質草の本を乱読。“質屋総合大学”出身
- 同19年(1886) 神戸の鈴木商店に入る。母民「主人と橋は強くなくちやいかん」
- 同27年(1894) 店主鈴木岩治郎死去、鈴木ヨネ、店の存続を決断、経営を金子に任せる
- 同29年(1896) 樟脳のカラ売りで大失敗
- 同32年(1899) 台湾樟脳専売制に協力、台湾総督府民政長官後藤新平の知遇を得る。鈴木商店飛躍のきっかけつくる
- 同33年(1900) 傍士質店の娘徳と結婚。3男2女を得る。男は高知で教育を受けさせる
- 同36年(1903) 住友樟脳製造所を買収、門司に大里製糖所を設立、以来買収・創設は60社に及ぶ
- 同38年(1905) 小林製鋼所を買収、神戸製鋼所と改称、高知商業4回生・南久寿象鈴木に入社、以後高知商業の卒業生が多数鈴木へ
- 同40年(1907) 1月日露戦勝バブル景気崩壊。大里製糖所を売却、400万円の巨利を占める。鈴木快進撃(企業買収、創設)の資金源となる
- 同42年(1909) 渋沢栄一から大日本製糖社長就任を要請されるも断る。

- 東工業、日本セルロイド、大日本塩業、札幌製粉、再製樟腦、帝国麦酒、南満州物産、大正生命、大連油房、山陽製鉄、台湾炭業、東京毛織、浪華倉庫、日本冶金、帝国人造絹糸、大陸木材、帝国燐寸、日本樟腦、長府土地、太陽曹達、大成化学工業、内国食品、日本拓殖、米星煙草、スタンダード油脂、大源鋳業、新日本火災、クロード式窒素工業、神戸製鋼所、豊年製油…大正 10 年にかけて 60 社
- 大正 3 年(1914) 欧州大戦勃発、金子の言葉「1 1 月以降、強気一方、すべてのものに買い方針で臨んだ」
- 同 4 年 (1915) 「天下三分の計」なる檄文を書く。戦後の反動を警戒
- 同 6 年 (1917) 鈴木の上り上げが 1 5 億円を突破、三井物産は 11 億円、三菱は半分以下
- 同 7 年 (1918) 外米輸入指定商となる。8 月米騒動で神戸の本店が焼き打ちさる
- 同 9 年 (1920) 3 月欧州戦争バブル景気崩壊。金子、国際汽船会長兼務、西川文蔵支配人死去
- 同 11 年 (1922) ワシントン軍縮条約調印、「背水の陣屋を囲む桜かな」
- 同 12 年 (1923) 株式会社鈴木商店（資本金 8000 万円）、鈴木ヨネ社長、鈴木岩治郎副社長、金子専務、柳田常務、重役陣に土佐派 4 人（窪田駒吉、西岡貞太郎、平高寅太郎、谷治之助）。三井物産（資本金 1 億円）、三菱商事（同 1200 万円）。
- 昭和 2 年(1927) 3 月 26 日台湾銀行、鈴木と取引断絶を通告、4 月鈴木破綻
- 同 3 年(1928) 鈴木の後継商社日商株式会社を立ち上げ、のち日商岩井→双日
- 同 4 年(1929) 鈴木傘下の企業整理の傍ら、お家再興を策す。石炭の液化事業のため羽幌炭鋳を開発、金子の胸像
- 同 6 年(1931) 太陽曹達（太陽鋳工）相談役に就任
- 同 9 年 (1934) 帝人事件勃発 3 月 19 日事情聴取
- 同 10 年 (1935) 鈴木の前部下たち神戸市御影に家を購入、金子に提供
- 同 13 年 (1938) 鈴木ヨネ逝去、告別式で金子は「刀自ノ生前ニ於イテ社礎ノ興新ト事業ノ回復ヲ為シ能ハザリシヲ無上ノ遺憾トス」とわびる
- 同 15 年 (1940) ジャワの砂鉄を調査、大陸運河を計画
- 同 19 年 (1944) 2 月ツンドラ事業の計画を鈴木正に指示、セメント、アルミナ事業について指示、2 月 26 日死去。多くの事業と人材を残す。大屋晋三ら鈴木OBの 6 大臣

II、岩崎弥太郎の生涯

- 天保5年(1834) 12月11日土佐国安芸郡井ノ口村に生まれる
- 同6年(1835) 坂本竜馬生まれる
- 同9年(1838) 後藤象二郎、大隈重信生まれる
- 同13年(1842) 小牧米山に学ぶ
- 弘化1年(1844) 岩崎峴山に学ぶ
- 同4年(1847) 藩主に奉迎の詩を呈し賞を賜る
- 嘉永1年(1848) 高知に出て岡本寧浦の塾に学ぶ
- 同4年(1851) 弟弥之助生まれる
- 安政元年(1854) 21歳 奥宮慥齋に従い江戸に遊学
- 同2年(1855) 1月安積良齋の塾に入る。12月帰郷
- 同3年(1856) 官吏誣告の罪で獄に入る
- 同4年(1857) 居村及び城下四か村追放処分となり、神田村に塾を開く
- 同5年(1858) 吉田東洋の少林塾(鶴田塾)に入る
- 同6年(1859) 郷廻りの役に就き、長崎に出張
- 同7年(1860) 長崎より無断帰国、免職
- 文久元年(1861) 郷土の家格を回復
- 同2年(1862) 高芝喜勢と結婚、吉田東洋暗殺される、藩主山内豊範上洛の
隊列に加わる
- 慶応3年(1867) 開成館長崎出張所(長崎土佐商会)に勤務、鬱陵島を探検、6
月主任となる。いろは丸衝突事件、イギリス水兵殺害事件の
解決に努力、パークス公使と談判、11月新留守居組に昇格
- 明治2年(1869) 開成館大坂出張所(大坂土佐商会)に転勤、土佐藩権少参事
に昇格
- 同3年(1870) 土佐屋善兵衛の名で土佐開成社を設立、大坂土佐商会を藩営
から分離、九十九商会と称す、土佐藩少参事に昇格
- 同4年(1871) 廃藩置県により藩吏の職を辞す
- 同5年(1872) 九十九商会を三川商会に改称
- 同6年(1873) 政府系の郵便蒸気船会社と競争、三川商会を三菱商会に改称、
12月吉岡鉦山を買収、経営
- 同7年(1874) 三菱商会の本社を東京に移す、台湾出兵に際し軍事輸送の命
を受ける。三菱蒸気船会社と改称
- 同8年(1875) 上海定期航路を開設、アメリカの太平洋海郵船会社(P. M)
を駆逐9月政府より第一命令書を受ける。郵便汽船三菱会社
と改称
- 同9年(1876) 三菱商船学校を設立、東京商業会議所議員となる。9月第二

- 命令書を受ける、イギリスのP. O汽船会社を駆逐
- 同 10 年 (1877) 2 月西南戦争に際し軍事輸送の命を受ける
- 同 11 年 (1878) 六義園、清澄庭園、茅町本邸など買い漁る。9 月脳を病む
- 同 12 年 (1879) 横浜正金銀行設立に出資
- 同 13 年 (1880) 三井肝煎りの東京風帆船会社設立されるも株買い占め等で妨害。この頃東京株式取引所、東京米穀取引所株を買収
- 同 14 年 (1881) 高島炭鉱を後藤象二郎から約 100 万円で買収、8 月北海道開拓使払下げ問題で紛糾、参議大隈重信が下野、自由党設立、脳病のため転地療養
- 同 15 年 (1882) 政府から第三命令書を受ける、10 月共同運輸会社設立
- 同 16 年 (1883) 1 月共同運輸会社が開業、三菱と競争始まる
- 同 17 年 (1884) 大阪商船会社創立、8 月胃病を発症、10 月自由党解散
- 同 18 年 (1885) 1 月政府は海運競争の中止に向け調停に動く。従五位に叙せられる、2 月 7 日岩崎弥太郎没 (50 歳 1 カ月)、13 日空前の大葬儀、16 日弟弥之助が第二代三菱社長に就任、9 月郵便汽船三菱会社と共同運輸が合併、日本郵船が誕生、三菱本体は海運業から撤退

Ⅲ、岩崎弥太郎と共通するもの

- 1、株式会社制嫌う (鈴木商店の株式会社化は大正 12 年、三菱合資の分社化は大正 6 年)
- 2、仕事師 (金子「是が為生命を五年や十年早くするも縮小するも更に厭う所に非ず」、岩崎「一身百需二応ジ実以昼夜分寸ノ間隙モ無之、殆寝食二暇ナシ」)
- 3、生来のブル (強気派、買い屋)、ブレーキ役の存在 (鈴木における柳田富士松や西川文蔵、三菱における弟岩崎弥之助)
- 4、樟脳にこだわった (金子は台湾産樟脳、岩崎は高知産樟脳)
- 5、旺盛な読書欲 (金子は乱読、岩崎は「日本外史」「資治通鑑」など歴史好き)
- 6、母親 (民、美和) が偉かったが、父親 (甚七、弥次郎) には存在感がなかった
- 7、風評を気にしない (金子は朝日新聞の米買占め批判、岩崎は自由新聞の海坊主退治)
- 8、政商であり、政商ではなかった (金子と後藤新平、岩崎と大隈重信)
- 9、土佐にはアダタナイ男。高知より国益を優先 (金子「明治大正の産業革命の源は鈴木商店」、三菱は所期奉公・立業貿易・処事光明)
- 10、土佐派の支え (鈴木は窪田駒吉ら高知出身の重役陣と高知商業OB、

三菱は川田小一郎、石川七財、森田晋三＝中川亀之助、豊川良平、末延道成、近藤廉平)

- 1 1、事業に対する貪欲さ（金子は死ぬまで事業の指示、岩崎臨終の言葉「十のうち一、二しかできていない」)
- 1 2、金子は氷嚢で頭を冷やした、岩崎は冷水で頭を冷やした

IV、異なる点

- 1、独学と英才教育（金子は質屋大学、岩崎は超エリートコース・小牧米山→岡本寧浦→奥宮慥斎→安積良斎→吉田東洋)
- 2、酒と女（金子は酒席無縁、岩崎はコップ酒)
- 3、新興の鈴木と既成の三菱（鈴木は新人も大きな商売、アルバイトも黙認、規律の三菱)
- 4、任せる金子、独裁の岩崎
- 5、小僧上がりか、学校出か（鈴木はボンサン中心、三菱は早くから慶応など学卒)
- 6、鈴木商店に固執する金子、社名変更の岩崎（九十九商会→三ツ川商会→三菱商会→三菱蒸汽船会社→郵便汽船三菱会社→三菱合資会社→三菱社→三菱本社)